

第33回 記者懇談会実施概要

1 日 時 平成16年10月4日(月) 15時～

2 場 所 100周年記念会館 第2会議室

3 内 容

(1) 研究発表(15:00～15:40)

・黒上 晴夫 総合情報学部教授

発表テーマ「転換期の教育現場を支援する」[資料1](#)

・冬木 正彦 工学部教授

発表テーマ「IT活用による高等教育の諸問題解決への取組

－教育方法、コンテンツ制作法、支援システム－」[資料2](#)

(2) 質疑応答(15:40～16:00)

(3) 学内状況説明・情報交換(16:00～16:30)

① 会計専門職大学院を設置

② SF入試(スポーツ・フロンティア入学試験)の結果 [資料3](#)

③ 文部科学省「法科大学院等専門職大学院形成支援プログラム」に採択

④ 文部科学省「現代的教育ニーズ取得支援プログラム(現代GP)」に採択

⑤ 豊中市教育委員会と連携協力に関する覚書を締結 [資料4](#)

⑥ 経済学部創設100周年記念式典・講演会を開催 [資料5](#)

⑦ スーパーSINETの運用を開始 [資料6](#)

⑧ 「関西大学産学連携オフィス 東大阪サテライト」を開設 [資料7](#)

⑨ 関西大学・漢陽大学校 第7回国際研究交流シンポジウムを開催 [資料8](#)

⑩ 社会学部シンポジウムを開催 [資料9](#)

⑪ 考古学ウィークエンドセミナーを開催 [資料10](#)

⑫ 関西大学サタデー・カレッジを開催 [資料11](#)

⑬ 大阪ブランドコミッティに協力 [資料12](#)

⑭ 新理事会が発足 [資料13](#)

4 大学側出席者

河田悌一学長、小幡 斉副学長、広兼道幸学長補佐、黒上晴夫総合情報学部教授、冬木正彦工学部教授、藤本清高広報課長

5 参考資料

(1) 関西大学大学院社会人学生募集のご案内

(2) 博物館展示会の開催(ご案内)

(3) 第15回考古学入門講座開催要項

(4) 第44回泊園記念講座チラシ

(5) 人権問題研究室第39回公開講座チラシ

(6) 技苑 No.119

以 上

転換期の教育現場を支援する

総合情報学部教授 黒上晴夫

子どもの学力低下あるいは二極分化が注目され、大阪市では全小学校で習熟度別学習を取り入れた。しかし、学力の問題は学力の定義、学力とその他のメンタルな要因との関連、学力を育てる方法の問題など、さまざまな角度から見る必要がある。一方、「新しい学力」を育てる学習方式として、総合的な学習や学校間交流学習など、さまざまな試みがここ数年活発に行われてきた。しかし、これらの学習活動で育つ学力は何かを明確に示す概念や試験は残念ながら存在しない。そこでそれらを具体的な学習活動に即して明確化し、評価に結びつけるソフトウェアを開発し、運用してきたが、その概要を紹介する。

また、あわせて教育現場におけるカリキュラム開発や評価の支援を目的として、新しく NPO 法人「学習創造フォーラム」を設立したが、その概要についても紹介する。

【プロフィール】

1989 年に大阪大学大学院人間科学研究科教育学専攻(教育技術学)を退学後、阪大人間科学部教育技術学講座に技官として就職。その後、同講座助手、同学部教育システム工学講座助手、金沢大学教育学部助教授を経て、2002 年から本学総合情報学部教授。専門は、「教育工学」「情報教育」「カリキュラム開発」。98 年に日本教育工学会研究奨励賞を受賞。

子どもたちが自由に学べる学習空間を創造することを目標にして研究している。そのために、学校に関わるさまざまなシステムをどのように変えなければならないのか、オープンスクールやインターネットでどのように「学び」が起こっているのか。そもそも何をもって「学び」と言えばいいのか。このあたりが興味を中心である。

チェロとテニスとスキーが趣味。漫才、落語などの上方芸能文化なしでは暮らせない。

IT 活用による高等教育の諸問題解決への取組

－教育方法、コンテンツ制作法、支援システム－

工学部システムマネジメント工学科
教授 冬木正彦

(1) 教育の質的向上が図れる「自発学習促進スパイラル教育法」の提案

授業支援型 e-Learning システム CEAS の特性を活かし、自発的な学習を促進し、学習の習慣を身につけさせることを目的とした教育法を考案した。工学部専門課程で、受講者が 100 人を超える多人数クラスでの上級プログラミングの授業に適用した結果、著しい効果を上げた。

(2) 授業支援型 e-Learning システム CEAS (シーズ) の開発

対面型集合教育を対象に、教室での授業と自宅や図書館での学習(予習・復習)の「授業と学習のサイクル形成」を統合的に支援する授業支援型 e-Learning システム CEAS (Web-Based Coordinated Education Activation System) を開発した。工学部での約 2 年間の利用を経て機能が洗練され、他学部・他大学での利用が積極的に展開されている。

(3) 2 段階アプローチによるコンテンツ制作と「コース経営パターン」の提案

CEAS を活用した正課教育実践過程で制作・蓄積される「授業コンテンツ」を蓄積し、その中から良質で公開可能なコンテンツを抽出し制作する。コンテンツ制作の 2 段階アプローチを提案する。同時に、CEAS の活用で教育の質が向上した例を蓄積データの中から選び、コンテンツと合わせて優れた教育方法のパターンとして蓄積し、公開する仕組みを考案した。従来の e-Learning 普及のボトルネックが解消され、教育の質的向上が期待できる。

(4) 教育機関への CEAS の無償配布と「CEAS Community Page」による導入・運用支援

Web サイト「CEAS Community Page」を昨年 9 月から運用し、非営利目的利用の教育機関へ CEAS を無償配布するとともに、導入と運用をサポートしている。さらに、中・高等学校向けのバージョンも開発中で、近々公開の予定である。

参照 URL <http://ceasdemo.iecs.kansai-u.ac.jp/>

CEAS の利用説明書、発表資料、関連プロジェクトなどを掲載

【プロフィール】

1969 年京大理学部物理学科卒業。大学院に進まれ 75 年理博。その後、学振奨励研究員や本学等の非常勤講師を経て 81 年本学着任、95 年教授。核物理の研究利用に始まる計算機との付き合いは長く、ソフトウェア開発および情報システムについての造詣が深い。生産マネジメントの分野で生産システムの計画立案/評価支援システムに関連した研究を進められ、シミュレーションシステムの開発から実際の工場のケース・スタディまで扱い、研究室で開発されたシステムで実用化されているものもある。近年は企業と連携しインターネット活用のビジネスモデルに関する実用開発研究も行われ、産学連携を実践されている。さらに関西大学ホームページの開設/運用も手がけられた。現在は工学部自発型オープンデザインシステムの導入/運用に尽力されている。研究熱心はもちろん非常に教育熱心で、少々ハードな指導にも拘わらず、学生は、よき師・よき先輩として敬愛している様子。趣味は音楽鑑賞、スキー、社交ダンス。グラス片手の談笑で夜のふけるのを忘れるのは、先生の大きな喜びの一つである。